復興ありがとうホストタウン連絡協議会　第３回総会
議事要旨

日　時：令和３年１月17日（日）15：00～15：40
形　式：オンライン開催
出席者：

東京オリンピック・パラリンピック担当大臣		橋本　聖子	（はしもと　せいこ）
岩手県	オリンピック・パラリンピック推進室長	木村　久	（きむら　ひさし）
岩手県	東京事務所長	高橋　達也	（たかはし　たつや）
宮古市	市長	山本　正徳	（やまもと　まさのり）
大船渡市	市長	戸田　公明	（とだ　きみあき）
花巻市	市長	上田　東一	（うえだ　とういち）
北上市	市長	髙橋　敏彦	（たかはし　としひこ）
陸前高田市	観光交流課長	村上　知幸	（むらかみ　ともゆき）
釜石市	副市長	窪田　優一	（くぼた　ゆういち）
二戸市	副市長	大沢　治	（おおさわ　おさむ）
雫石町	町長	猿子　恵久	（さるこ　しげひさ）
矢巾町	町長	高橋　昌造	（たかはし　しょうぞう）
大槌町	町長	平野　公三	（ひらの　こうぞう）
山田町	町長	佐藤　信逸	（さとう　しんいつ）
野田村	村長	小田　祐士	（おだ　ゆうじ）
宮城県	オリンピック･パラリンピック大会推進局長	大山　明美	（おおやま　あけみ）
仙台市	市長	郡　和子	（こおり　かずこ）
石巻市	復興政策部東京オリンピック・パラリンピック推進室長	石川　儀幸	（いしかわ　よしゆき）
気仙沼市	市長	菅原　茂	（すがわら　しげる）
名取市	市長	山田　司郎	（やまだ　しろう）
岩沼市	副市長	鈴木　隆夫	（すずき　たかお）
東松島市	副市長	小山　修	（おやま　しゅう）
亘理町	町長	山田　周伸	（やまだ　ひろのぶ）
加美町	町長	猪股　洋文	（いのまた　ひろぶみ）
福島県	オリンピック・パラリンピック推進室主事	清水　邦彦	（しみず　くにひこ）
白河市	教育委員会生涯学習スポーツ課長	遠藤　英喜	（えんどう　ひでよし）
喜多方市	市長	遠藤　忠一	（えんどう　ちゅういち）
二本松市	生涯学習課長	服部　憲夫	（はっとり　のりお）
南相馬市	市民生活部次長　兼　スポーツ推進課長	末永　実	（すえなが　みのる）
伊達市	総合政策課長	木村　正彦	（きむら　まさひこ）
本宮市	教育部　国際交流課長	鈴木　正史	（すずき　まさし）
北塩原村	村長	遠藤　和夫	（えんどう　かずお）
楢葉町	復興推進課長	遠藤　俊行	（えんどう　としゆき）
広野町	町長	遠藤　智	（えんどう　さとし）
川俣町	生涯学習課長	望月　高	（もちづき　たかし）
飯舘村	村長	杉岡　誠	（すぎおか　まこと）

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局企画・推進統括官　　勝野　美江　（かつの　みえ）
内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局参事官　　大森　康宏　（おおもり　やすひろ）

１．挨拶

〇橋本 東京オリンピック・パラリンピック担当大臣

・新型コロナウイルス感染症への対応にご尽力されている中、「復興ありがとうホストタウン連絡協議会」第３回総会にご参加いただき、感謝申し上げる。
・まもなく東日本大震災から 10 年となる。また、本日１月 17 日は阪神・淡路大震災の発生から 26 年となる日でもある。この間も、日本全国で多くの災害が発生してきたが、その際には国内外から多くの支援の手が差し伸べられ、感謝の輪が広がるといったことが起きている。「復興ありがとうホストタウン」もそのような感謝の気持ちを、支援をいただいた世界の国・地域に発信しようということで設置したもの。
・「復興オリンピック・パラリンピック」は東京大会の最も重要な柱であり、昨年６月に IOC と組織委員会が公表した大会の位置づけにおける「共通理念」においても、「復興」が大会の重点の１つとして確認されたところ。
・世界は未だ困難な状況に直面しているが、これまでに幾多の困難を乗り越えてきた皆様だからこそ、世界の皆さんに勇気や希望が与えられる発信が可能であると信じている。
・東京大会時の交流の際には、しっかりと感染症対策を行った上で、「復興ありがとうホストタウン」として重要な感謝の気持ちを伝え、復興した姿をご覧いただく、そして未来につながる新たな一歩を踏み出していくということをどう実現していくか検討する必要がある。オンラインを駆使しながら、どのような交流を行うことができるか、本協議会の枠組を使ってアイデアを共有していただきたい。
・東京大会が、新型コロナウイルス感染症を乗り越えた証として、安心・安全な大会となるよう全力で取り組み、ホストタウンの交流が大会後も末長く続くよう、最大限の支援をしていただきたい。
・本総会では、コロナ禍で進められている取組についていくつかの自治体から発表いただいた上で、より良いホストタウン交流を計画いただけるよう有意義な意見交換をさせていただきたい。

〇宮城県 村井知事（ビデオメッセージ）

・本総会の開催にあたりご尽力された橋本大臣を始め、内閣官房オリパラ事務局に感謝を申し上げる。
・東日本大震災の発生より、本県は世界中から多大な支援をいただいてきた。「復興ありがとうホストタウン」の取組は、これまでの支援に対して感謝の気持ちを伝えるとともに、復興した姿を世界に発信する絶好の機会と考えている。
・本県では、８つの市・町が「復興ありがとうホストタウン」に登録され、新型コロナウイルス感染症拡大の中でも、相手国とオンライン交流を行うなど、様々な取組が進められている。県として、ホストタウンの取組を通じて生まれた交流の輪がさらに広がり、大会後も末永く交流が続くよう、支援してまいる。
・東京大会は、新型コロナウイルス感染症対策を取りつつの開催となるが、アスリートの PCR 検査等の医療提供や、移動時の感染予防など、国や市・町、関係機関と一層連携を深め、安心・安全な大会運営に向けてしっかりと準備を進めてまいる。財政支援を始め、諸外国との調整など、国からの強力な支援をお願いしたい。
・本総会を契機に、「復興ありがとうホストタウン」の取組が更に充実したものとなることをご期待申し上げる。

２．議事

（１）　会長の選任について

（司会）

・本協議会の会長は任期を１年とし、互選により選任としている。引き続き橋本大臣を会長とすることを提案する。異議はないか。（異議なし）

・異議なしと認め、会長は引き続き橋本大臣にお願いすることとする。

（２）　復興ありがとうホストタウン連絡協議会の活動について

（内閣官房より説明）

・本協議会は 2019 年６月に設立し、同 7 月に岩手県釜石市で第１回総会を、同 11 月には福島県 J ヴィレッジで第２回総会を開催した。昨年９月には、会長である橋本大臣と、副会長である岩手県山田町長、宮城県加美町長、福島県南相馬市長のオンライン意見交換を実施した。

・昨年７月、ホストタウン専用 WEB サイト「世界はもっとひとつになれる」を開設。11 の復興ありがとうホストタウンに作成いただいた自治体応援メッセージ動画や、５つの復興ありがとうホストタウンに作成いただいた国歌合唱動画も掲載。

・昨年８月、復興ありがとうホストタウン連絡協議会 Instagram を開設。9,000 名を超えるフォロワーを獲得。各自治体から素敵な写真とともに日本語・英語で世界に発信いただいている。

・復興ありがとうホストタウンを紹介する動画の制作や、JR 仙台駅での展示による PR も実施してきた。

・今後の取組として、今夏に選手を迎えるにあたり、食の取組も重要になってくる。地元の食材、特に GAP など選手村の調達基準を満たした食材を活用した料理開発が各地で行われている。昨年度の「GAP 食材を使ったおもてなしコンテスト」に参加いただいた福島県二本松市×県立安達東高等学校の取組を始め、岩手県雫石町ではドイツ料理教室の開催、同県山田町では「だし」を活用した料理開発、同県矢巾町では同じオーストリアのホストタウンである栃木県那須塩原市等と連携した料理開発、宮城県名取市では GAP 認証を取得したトマトときゅうりを活用した伝統料理の開発、福島県楢葉町では J ヴィレッジのシェフと連携したメニュー開発など、素晴らしい取組が行われている。

・日本郵便と連携した「ホストタウンフレーム切手」の取組は４つの復興ありがとうホストタウンで発行済み。「ホストタウン相手国・地域にお手紙を送ろう」の取組も進んでいる。

・今夏に向けて、そして 2021 年を越えた取組として、ぜひ様々な活動にチャレンジしていただきたい。

（３）　オンラインを活用した機運醸成について

①岩手県大槌町（台湾・サウジアラビア）　平野町長

・同じく台湾の「復興ありがとうホストタウン」である同県野田村と連携し、中華台北オリンピック委員会、卓球協会、バドミントン協会及び陸上協会とオンライン会議を開催し、現況の共有や大会後交流に向けた調整を実施。また、町・村で一丸となって台湾を応援し、機運醸成を図るため、台湾のオリンピック出場内定選手から町民・村民へのメッセージ動画の制作及び町・村の広報誌での選手紹介記事の制作を進行中。感謝の発信として、台湾の新聞へのメッセージの掲載を予定しているほか、福島県南相馬市・北塩原村も加えた４自治体で連携し、２月に台北市で開催されるアニメ・コミックスフェスティバルへのブースの出展およびステージイベントへのオンライン出演を予定している。

・サウジアラビアについては、JICA の協力のもと、スポーツ省やサッカー協会とオンライン会議を先週開催。町からは、これまでの支援への御礼を伝え、現況を共有するとともに、交流計画を説明。先方からは、交流に向けた協力の意向をいただいたため、今後詳細を詰めていく方針。

・今後も、台湾とサウジアラビアとの交流に向けてオンラインを積極的に活用していきたい。

②宮城県岩沼市（南アフリカ）　鈴木副市長

・日本から南アフリカへ行くのに通常時でも 24 時間程度かかり、市民同士の直接の交流が難しいため、コロナ禍以前から、交流形態の工夫を検討していた。昨年１月には、７時間の時差を越えて、市内小学校と南アフリカのクロフォード校の子どもたちが、オンラインで交流した。

・今年度は、コロナ禍の中での交流継続に向け、南アフリカスポーツ連盟、オリンピック・パラリンピック委員会とのオンライン会議を開催。市の南アフリカ応援ホームページへのオリンピック・パラリンピック代表選手の動画提供や、南アフリカと市内の小中学生がお互いの国を応援するポスターコンクールへの、オリンピック委員会長名の表彰状提供などに同意をいただいた。オンラインで顔を合わせて話し合うことで、率直な意見交換ができ、協力を得やすくなったと感じている。

・今後、南アフリカの学校とオンラインで繋いでポスターコンクールの表彰式を実施するほか、引き続き会議等でもオンラインを活用していきたい。

③福島県飯舘村（ラオス）　杉岡村長

・昨年 12 月、ラオスのパラリンピック水泳選手やコーチの皆さんと、受け入れるスタッフの顔合わせも兼ねてオンラインによる交流会を実施した。村からは、徹底した新型コロナウイルス感染症対策を行うことを伝えるとともに、選手の皆さんにも感染症対策に協力をお願いしたいと伝達。ラオスの選手たちからは、「一昨年の強化合宿で、素晴らしい施設であることを確認している」「村のコロナ対策を確認でき、安堵した」などの感想をもらった。「主食のもち米の用意をお願いしたい」「辛い味付けでお願いしたい」などの要望も出され、村からは、できる限り要望に沿えるよう準備を進める意向を伝えた。

・村の気候についての質問に対し、ミニ雪だるまを作って見せる場面もあり、実務的な意見交換とともに、和やかな雰囲気の中で気持ちを通わせることができたと感じている。

・これからの飯舘村を「ワクワクする楽しいふるさと」にしていくため、「復興ありがとうホストタウン」の様々な取組を通して、自らが人を思いやる心の大切さ、自らが人に思われて生きることの尊さを、「ありがとう、おかげさま」の心で発信していきたい。

④岩手県矢巾町（オーストリア）　高橋町長

・大会後の同国との継続した交流に向けて、町内に所在する県立不来方高等学校音楽部員が演奏旅行でオーストリアを訪問する際にホストファミリーとして受け入れてくださるオールスドルフ村の村長と、町長自身が 12 月にオンライン面談を行った。８時間の時差はあるものの、通訳を介して、国内のオンライン会議と同様にスムーズにやりとりできた。今後も音楽を通じた交流として高校生の受入れをお願いするとともに、将来的には中学生の相互派遣など双方向の交流へ発展させていきたい旨を伝達。先方からは「会えることを楽しみにしている」などの前向きな言葉をいただいた。

・今後は、小中学生にオンラインを活用した交流をしてもらいたいと考えている。オーストリアに縁のあるオリパラ選手から話を聞いたり、現地の子どもたちと合唱や吹奏楽の演奏動画を送り合ったりするなどし、引き続きオーストリアを応援していく気持ちを醸成していきたい。

⑤宮城県気仙沼市（インドネシア）　菅原市長

・市の基幹産業である水産業に、海上・地上で多数のインドネシア人が従事しており、インドネシアは大切なパートナー。市内にはインドネシア料理店や祈祷室もできた。

・同じ津波の被災地であるインドネシア・アチェ州の小学生と市内の小学生がオンライン交流を実施している。昨年２月に双方合計約 60 名規模で開催し、今年も２月に予定している。互いの生活様式や学校生活を紹介し合ったほか、同じ曲をインドネシア語・日本語で発表し合う、プレゼントを贈り合うなど、心を通わせる取組を実施している。

・今後は、料理イベントやバドミントン大会を通じての交流を予定しているほか、東京大会時には、試合会場やパブリックビューイングでの応援を計画している。未来を担う子どもたちを中心に、インドネシアとの関係を大事に思う気持ちを醸成していきたい。

（４）　意見交換

①宮城県加美町　猪股町長

・チリのパラリンピック選手（カヌー、陸上、パワーリフティング）を８月に約２週間受け入れる予定。その際に地元住民との濃密な交流を計画していたが、難しそうであるため、選手を最優先に考えた上でどのように交流するかを検討している。場合によっては、パラリンピック終了後、感染症収束後の交流も考えなければならないと思っている。国からのアドバイスや支援を引き続きお願いしたい。

②福島県喜多方市　遠藤市長

・震災後、原発事故の影響で風評被害に見舞われたが、米国とボートを通じたホストタウン交流に取り組んでおり、一昨年にはジュニアの選手を迎えてホームステイも経験してもらった。市では喜多方ラーメンが有名だが、選手たちも日本の食文化に興味を示していたので、食の交流も行いながら選手の活躍を期待したい。３月 26 日にはオリンピック聖火リレーも当市を通過するので、復興とコロナ収束を示していきたい。

③橋本 東京オリンピック・パラリンピック担当大臣

・貴重なご意見に感謝申し上げる。

・コロナ禍においても様々なアイデアを出しながらホストタウン事業にご尽力いただいており感銘を受けた。国としても各自治体としっかりと連携をとりながらサポートさせていただきたい。

・相手国・地域の文化を受け入れると同時に、日本の文化をどのように発信するか、あるいはそれらをどのように融合させるかをしっかりと考えていただいている印象。

・アスリートの食事面も含め、相手国・地域が何を求めているかを把握し、対応しようとされている姿勢は心強い。

・次世代の若い方々を主役として交流を深め、レガシーを作り上げていくことで、「復興ありがとうホストタウン」を今後に向けて育てていただいていると感じた。

・コロナ禍において、ホストタウンとして何ができるか悩むことも多いと思うが、各ホストタウンの好事例を活かしながら、素晴らしい交流をしていただきたい。

以上